

Title	一吋望遠鏡による太陽投影法
Author(s)	中村, 要
Citation	天界 = The heavens (1922), 2(17): 94-94
Issue Date	1922-03-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/159678">http://hdl.handle.net/2433/159678</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

は其の一例である。此の點から言へば支那學者でも一葉を備へる必要があると思ふ。

月並な新聞、雜誌の附録にある世界地圖などを書齋の壁に貼り付けて直ぐ閑却して終ふより、同じ厚紙を貼る位なら珍らしい此の地圖を掲げて、多少なりとも天上来に親しみ、時々人間界、煩累から脱するのも亦樂しからずやと言ひたいのである。(古川)(本會出版、定價金壹圓五拾錢)

## 大阪の計量博覽會

大阪の商品陳列所内に四月一日から開會せられる筈の計量博覽會には、京都大學の天文臺から宇宙の計量に關する出品をする筈で山助本教授は其の準備に忙殺されてゐる。出品物は六百時の月の寫眞を始め、太陽や火星の圖、それに遊星や恒星の大きさの比較、宇宙度量衡の表、その他、望遠鏡や天體の各種の模型など。尙「火星の接近」と題する大模型は直徑八尺の軌道上を火星が運行する有様を地球から觀る關係で、恰も本誌の口繪を生かしたやうなものである。一般同好者の見逃がされないやうに望む。

## 一寸望遠鏡による太陽投影法

中 村 要

本年一月號の觀測の手引の太陽の部に、此の望遠鏡は投影法には適せぬと書きましたがあれはGレンズを用ゐた爲めに結果が悪かつたので、あれにA Bレンズを組合せて、望遠鏡の軸の中心でBレンズから約三尺位離れた所で焦點を結ぶ様にすれば、直徑二寸位の、何等色付きのない見事な太陽の像が見えます周圍を暗くすれば、よくもこんな望遠鏡で立派に行けるものだと思ふ位立派に行きます。黒點の觀測は勿論、白斑、米粒組織の觀測まで立派に行ひ得ます。もう少し工夫すれば寫眞も大丈夫されると思ひます、少し長くなるので不便ですが、巧みな方法です。此れはカナダ天文學會の「Tomlin」に出てゐたのを一時適用したのです。私の経験では Olwayの二吋でやつた投影よりも此の方がよくわかる位であると思ひます。

約の如く、同地の女學校に行く、木村教諭が喜んで迎へ下さる。

尼ヶ崎では、夜に觀望もやりたいつもりで大阪から御影から二つの望遠鏡を借りて來て置かれたが、生憎此の夜は昨夜に反して、全くの曇り、雨さへ降り出したため、集つた人々は諦め好く、定刻には講演會場に集まつた。來會者の中には西の宮や池田伊丹あたりから來た人もあつて、意外の盛況である私は七時、壇に上り、前後二時間中、天文學上の一般講話をやつた。

會後、四五の有志と歡談數刻、十時、村山氏に見送られて女學校を辭し、大阪までは電車、それから汽車を好い氣持に居れむりながら、夜半、京都に着、驛頭に出て見れば、外には念の入つた雨がしとく降つてゐる。

## ハガキ便り

山本先生 御健康を祝します。

先生、嬉しいことです、新しい尋常五年生の國語讀本を御覧になりましたか「星の話」が教材に出てゐますよ、内容には星の運動、色、北極星、星の傳説が示してあります、天文が立派に教課の中に這入つて來ました。

二月十七日

伊丹小學校 津田 雅三